

# OCHISが勉強会

## 健康起因事故防止へ 健診データの活用を

運輸業界の健康と安全管理をサポートするNP法人ヘルスケアネットワーク（OCHIS、理事長・武田裕大阪大学名誉教授）はこのほど、「健診結果データの見方と活用勉強会」を大阪府トラック会館で開催した（写真）。健康起因の事故が増加傾向にある中で運転者らの健康診断受診にとどまらず健診結果の有効活用が事故防止や企業責任のリスク回避となるが、事業者側の活用方策が手探りの状態のため健診



データの見方や活用方法を研修した。この日の出席者は定員20人限定で開催したため、予約開始の即日

に定員が埋まりトラック、タクシーから総務、人事、安全管理などの担当者が自社の健診結果データを持ち寄り参加した。

冒頭にOCHISの作本貞子理事が健診結果活用の必要性和効果を説明。この中で作本理事は、不規則労働の運転者が慢性的な睡眠不足や過労、健康障害を抱えている可能性を指摘し

た。この上で事業者としての健康管理対策、安全対策が企業責任として重要でありながらも、十分であることから交通労働災害につながっているケースが多いことを示した。事故が発生すれば刑事、民事、行政、社会に対する「事業者の4重責任」を追及される危険性を指摘して、健診データの活用を訴えた。

### 参加者は熱心にメモ

実際のデータ活用方法については、OCHISの黒田悦子保健師が参加者の持参した健診データを例に説明した。労働安全衛生法で1年に1回の定期健診が義務付けられていることや、常時50人以上の労働者の場合には「定期健康診断結果報告書」を所轄労働基準監

督署に提出する必要があることなど健診にかかる基本を説明した。

今回の勉強会は、事業者による健診結果の有効活用に向けたステップとなり、参加者は熱心にメモを取り続けた。